



イーレックス株式会社[9517]

再生可能エネルギーをコアに
電力新時代の先駆者になる

2022年3月期第3四半期
決算補足説明資料

2022年2月10日

将来見通しに関する注意事項

本資料は当社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先

イーレックス株式会社 IR広報部

Mail: ir.info@erex.co.jp

決算概要

～2022.3期 第3四半期～

2022.3期第3四半期実績(2021年10月~12月)

(単位：億円)	'21.3期 第3四半期 (実績)	'22.3期 第3四半期 (実績)	対前年同期 増減率
売上高	283.4	682.5	140.8%
EBITDA* ₁	34.6	56.8	63.9%
営業利益	22.0	25.8	17.1%
経常利益	23.0	40.4	75.7%
当期純利益 [*]	12.7	35.8	182.0%

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

*親会社株主に帰属する四半期純利益

2022.3期第3四半期実績(2021年4月~12月)

(単位：億円)	'21.3期 第1~3四半期累計 (実績)	'22.3期 第1~3四半期累計 (実績)	'22.3期 通期 (計画)	対前年同期 増減率	通期計画 進捗率
売上高	756.5	1,509.5	1,585.0	99.5%	95.2%
EBITDA* ₁	103.6	150.0	167.6	44.7%	89.3%
営業利益	69.2	79.4	114.0	14.7%	69.7%
経常利益	69.2	107.5	115.0	55.4%	93.5%
当期純利益*	39.5	79.0	65.0	100.2%	121.7%

*EBITDA… 税金等調整前当期純利益+支払利息+減価償却費+工事負担金償却等

*親会社株主に帰属する当期（上期）純利益

① 売上高、経常利益ともに増収増益で推移

- 販売電力量増加
- 卸売、デリバティブ取引の活用

② JEPX高騰下において、デリバティブ取引などのリスク調整手段を利用し収益を確保

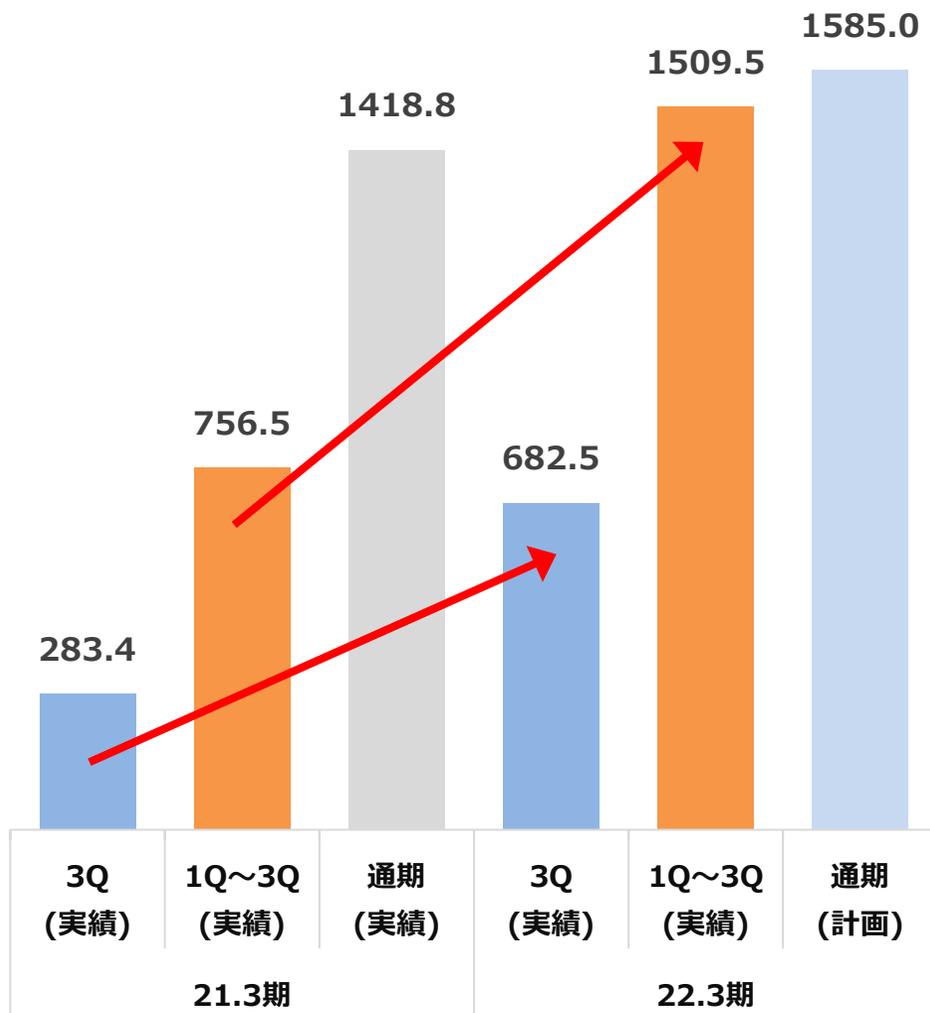
③ 高圧契約の値上げ提案を実施中

④ 石炭火力の買収交渉を継続中

⑤ ベトナム国との協力関係が進展

- フーイエン省との間で覚書締結

(単位：億円)



売上高 **1509.5** 億円

前年同期比 +99.5%

高圧小売

- 売上高増(同+54.7%)
- 電力市場価格高騰により販売価格の見直し

低圧小売

- 売上高増(同+8.3%)
- 需要家件数増 約27万件(同+5.5万件)

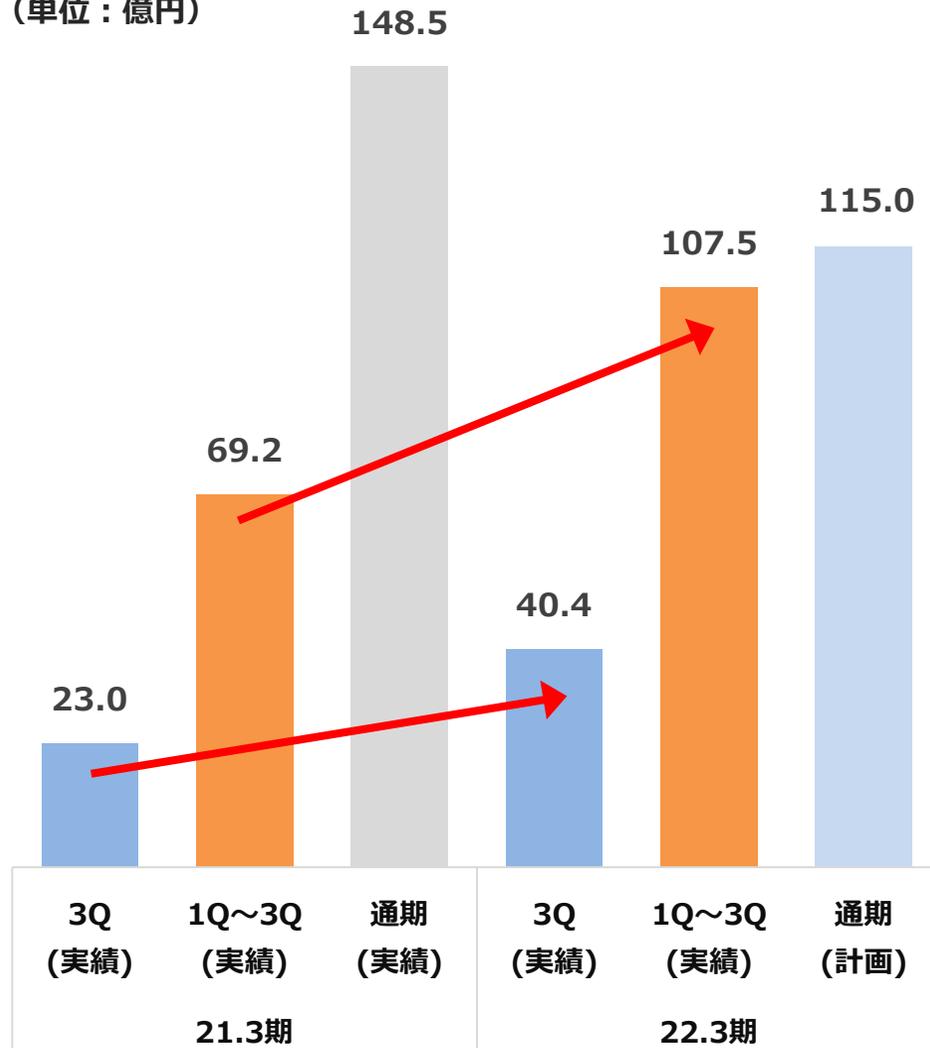
卸売

- 市場変動の影響の低減を図るため相対契約による電源・トレーディングを活用

豊前発電所・中城発電所

- 他社に全量売電

(単位：億円)



経常利益 **107.5** 億円

前年同期比 +55.4%

- 通期計画に対して順調に推移
(進捗率：前年通期対比73.4%)
前年度経常利益：21.3期4Qの異常な市場価格高騰に伴い、
トレーディングによる大幅な利益計上
- 電力市場価格高騰により販売価格の見直し
- 市場価格高騰の変動リスクを相対契約による電源およびトレーディング（先物含む）等で低減。利益に寄与

(参考)新収益認識基準の適用の影響に関して

- 2022年3月期より、「収益認識基準」が適用され、従来は売上高（収益）に計上していた取引の一部で、計上科目の変更が発生（原価も変更となり、収支には影響なし）
- 賦課金と納付金は、費用負担調整機関の為の回収である事から、回収金の増減計上
- 交付金は、同基準に則した電気事業会計基準の改正により費用のマイナス計上

適用影響額

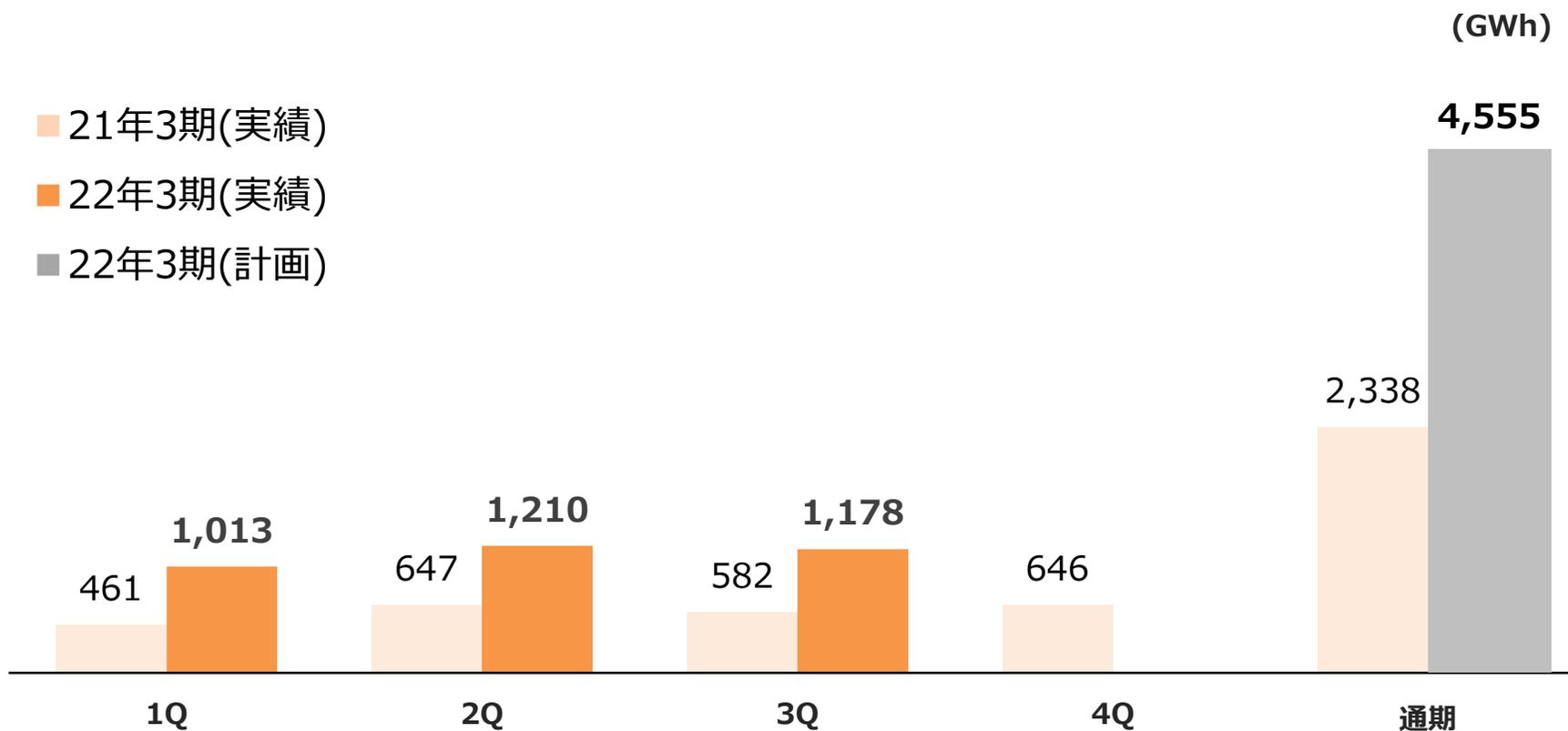
(単位：億円)	3Q						1Q~3Q					
	'21.3期			'22.3期			'21.3期			'22.3期		
	適用前	適用後※	増減※	適用前	適用後	増減	適用前	適用後※	増減※	適用前	適用後	増減
売上高	283.4	262.0	△21.3	727.0	682.5	△44.4	756.5	693.4	△63.1	1637.8	1509.5	△128.3
経常利益	23.0	23.0	—	40.4	40.4	—	69.2	69.2	—	107.5	107.5	—

※参考数字

■ 販売電力量は前年同期を上回る

- ・ 販売電力量 前年対比101.1%増
- ・ CO2フリープランを含む使用量の大きい需要家への営業強化により、計画に対し順調に推移

販売電力量 推移

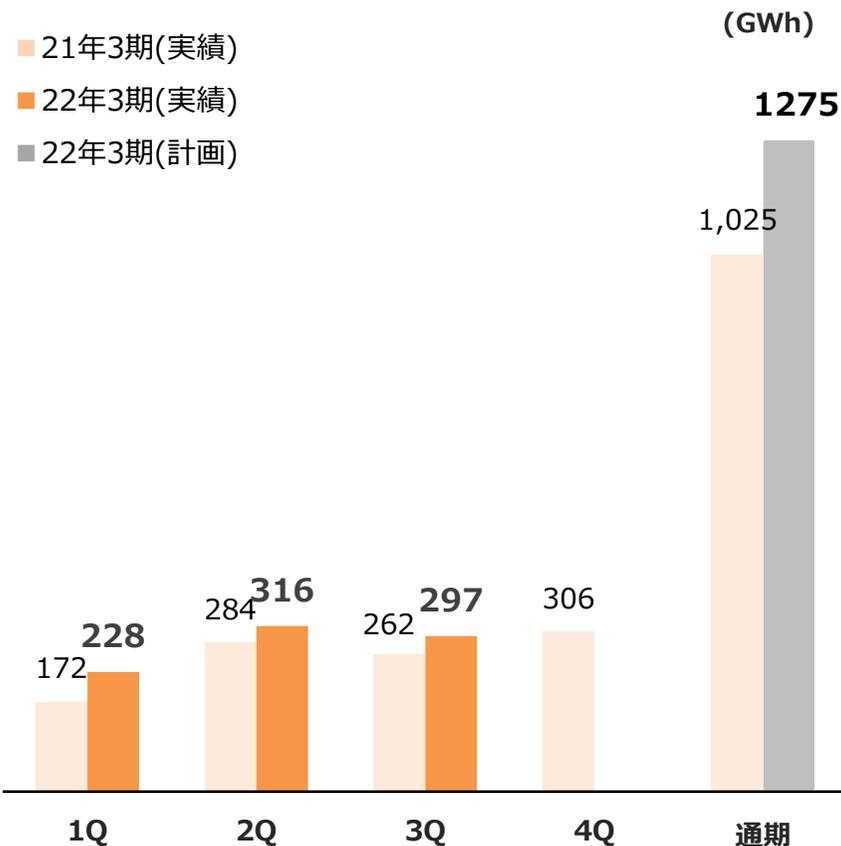


2022.3期第3四半期ハイライト(低圧小売)

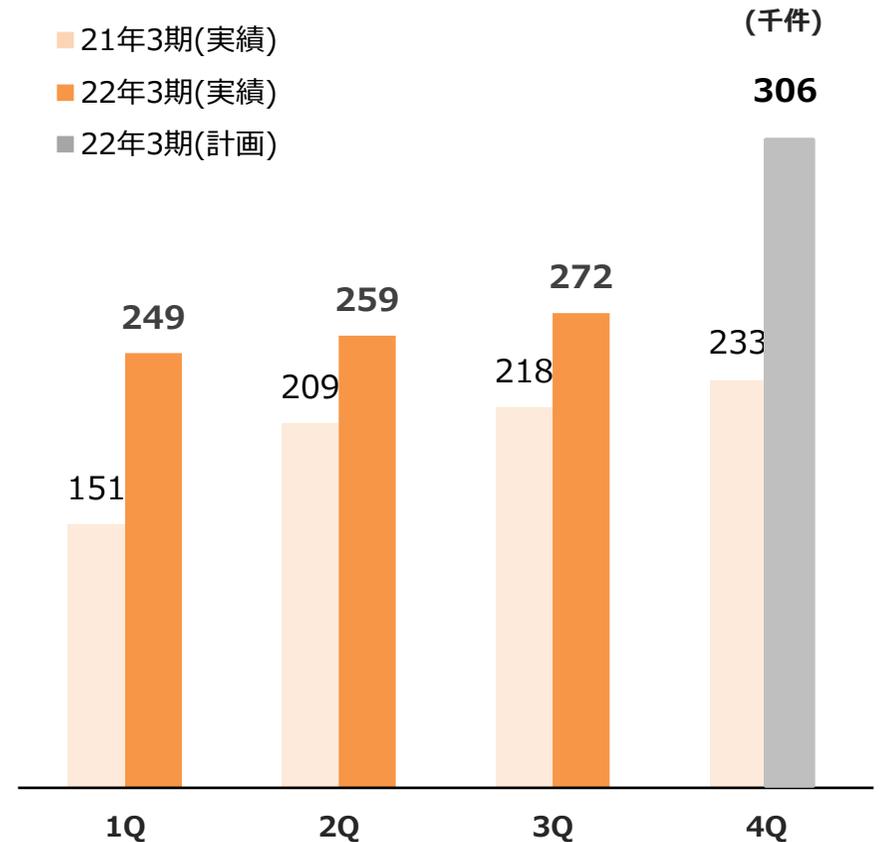
■ 販売電力量、供給件数は前年同期を上回る

- ・ 販売電力量 前年対比16.9%増
- ・ 新規販売代理店による営業強化、キャンペーン等による施策を実施
- ・ 販売電力量は計画を上回ったものの、供給件数は未達

販売電力量 推移



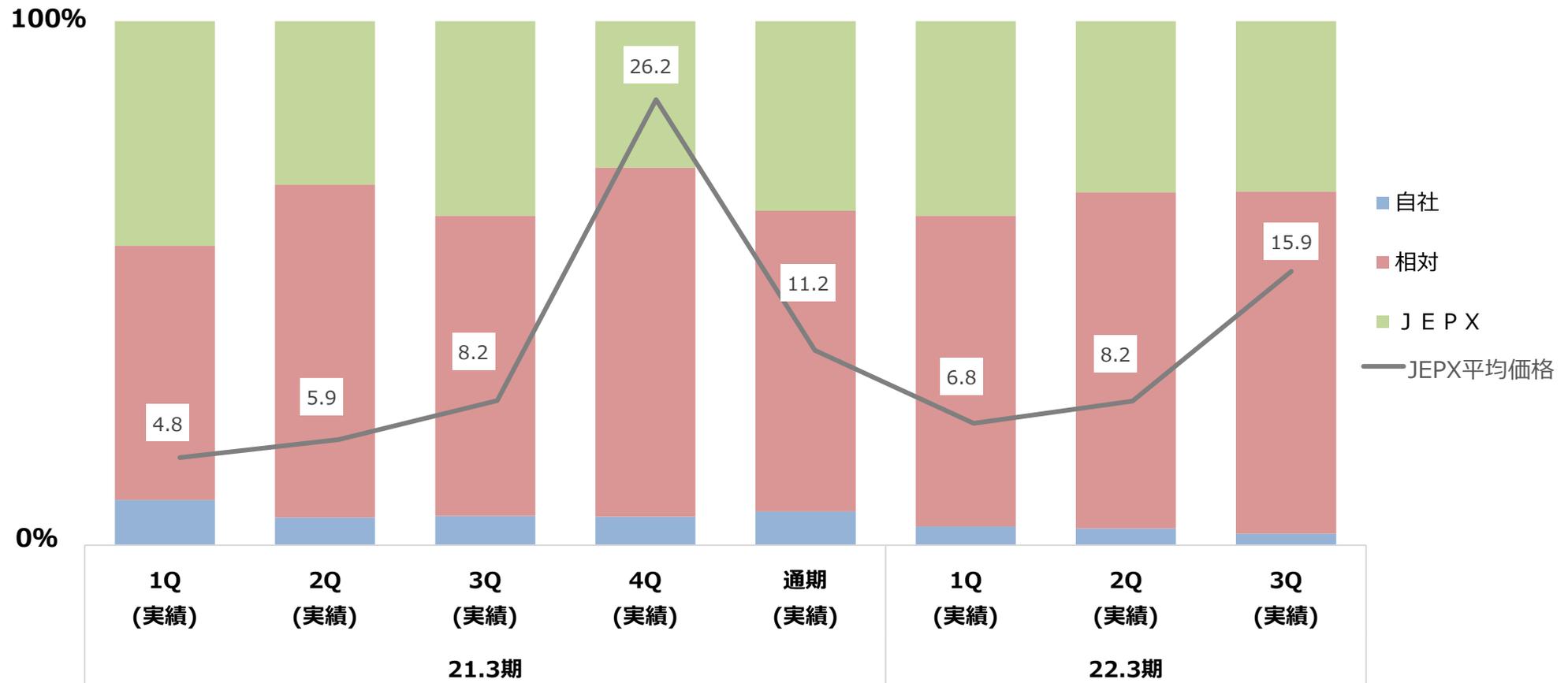
供給件数 推移



2022.3期第3四半期 電源調達構成

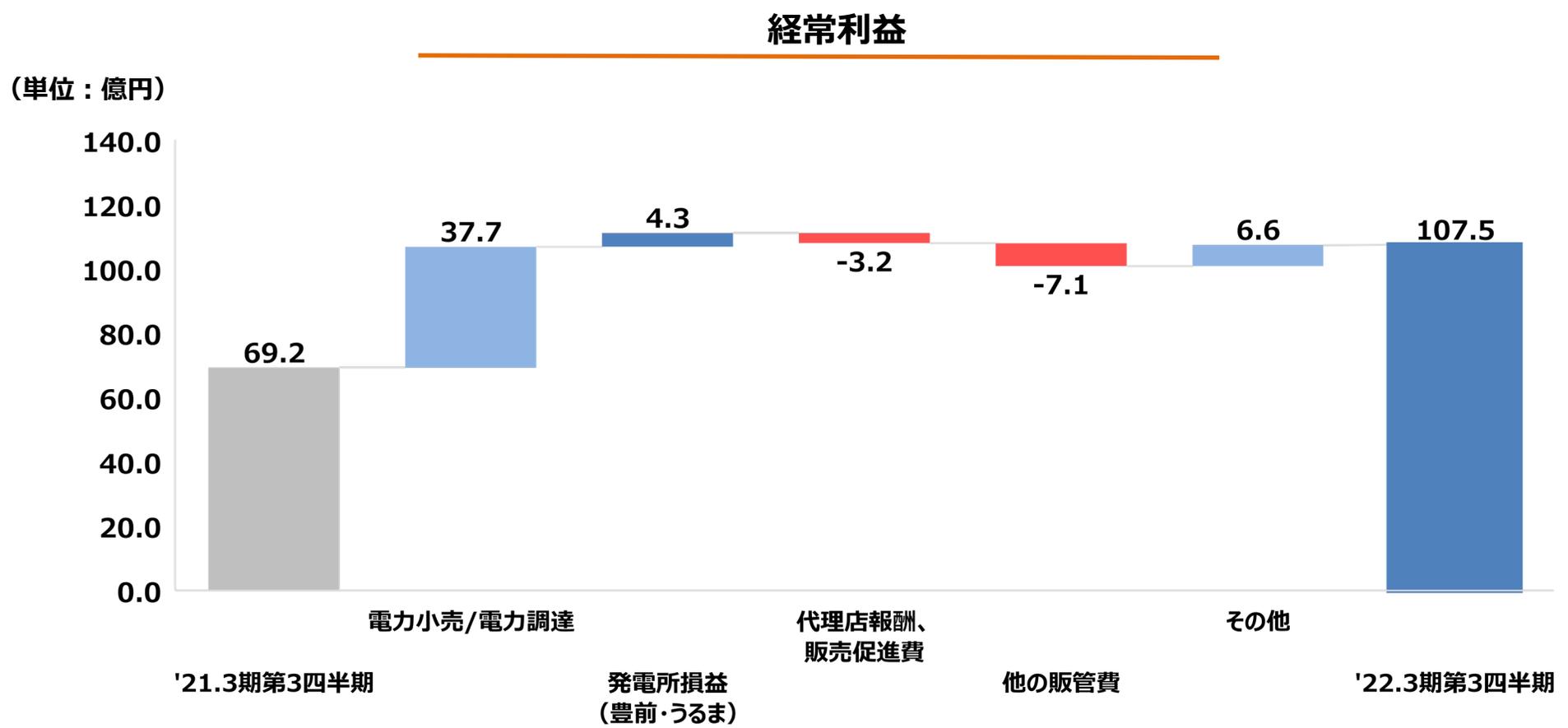
■ 2021.3期3Qに対し、2022年3期3QのJEPX価格は燃料価格の高騰により7.7円/kWh高く推移

調達割合・JEPX価格推移 (システムプライス)



2022.3期第3四半期（累計）前年同期比による増収要因

- 需要の大きな顧客への販売により販売単価は低下したが、卸売等の活用により増収
- 市場価格高騰により、競争力のある相対電源等からの調達を増加させ、コストの低減を図った



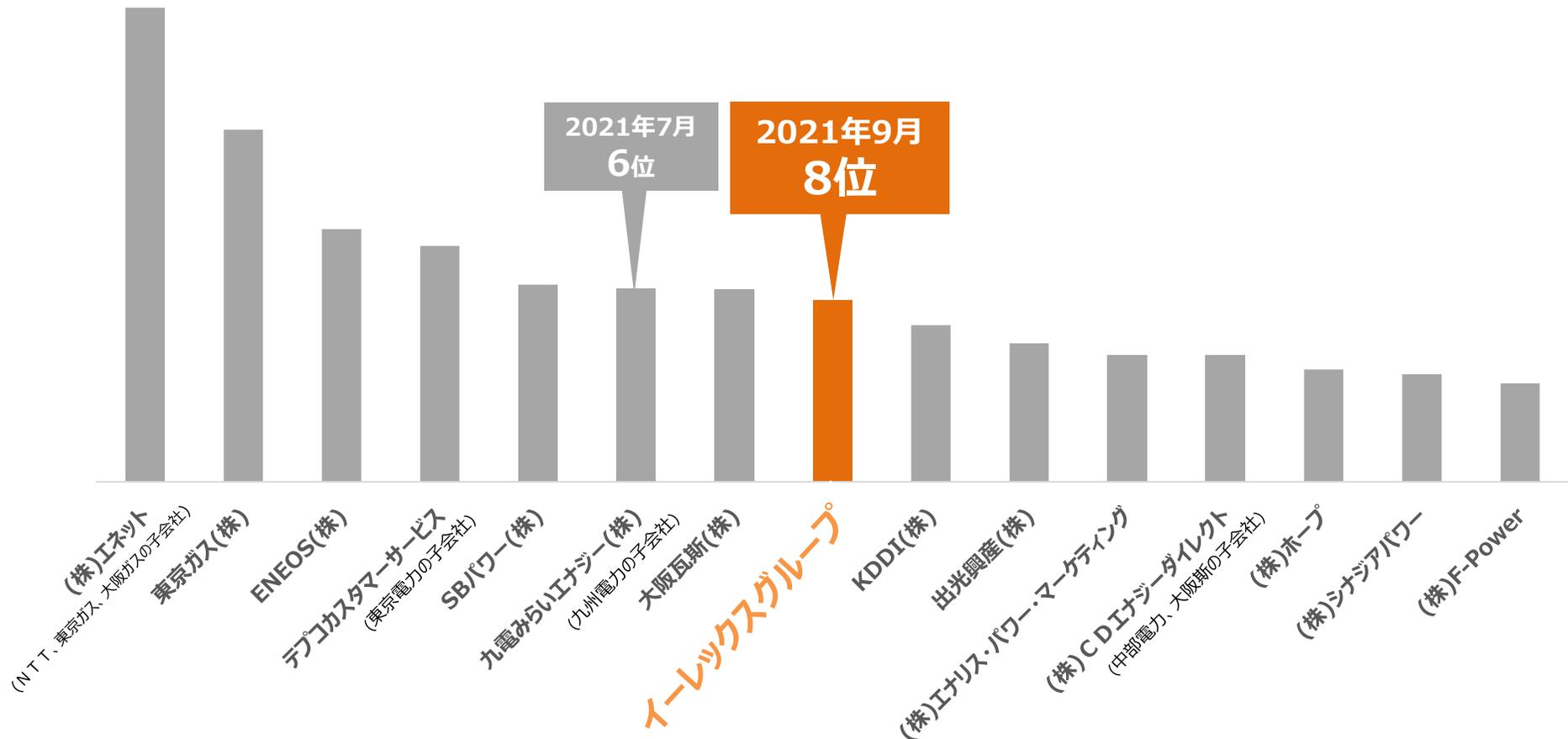
連結貸借対照表の概要

(単位：億円)	2021.3期末	2022.3期 第3四半期末		
		実績	増減	主な増減要因
流動資産	550.4	708.0	157.5	電力販売量の増加による売掛金の増加
固定資産	728.3	840.2	111.9	うるまの営業運転開始による固定資産増加
資産合計	1,278.7	1548.2	269.4	
流動負債	299.6	377.7	78.0	電力調達量の増加による買掛金の増加
固定負債	434.1	536.3	102.1	うるまの長期借入金増加
負債合計	733.8	914.0	180.2	
株主資本	410.1	480.9	70.7	利益剰余金の増加
その他の包括利益累計額	30.6	44.1	13.5	繰延ヘッジ損益
非支配株主持分	104.1	109.1	4.9	子会社の損益の取込による増加
純資産合計	544.9	634.2	89.2	
現金及び預金	317.0	317.9	0.9	
有利子負債	476.7	576.7	100.0	
自己資本比率	34.5%	33.9%	-0.6%	

電力販売量ランキング

- 約700者を超える小売電気事業者の中で、2021年9月時点の販売電力量ランキング8位
- 有力代理店を拡大中

販売電力量ランキング

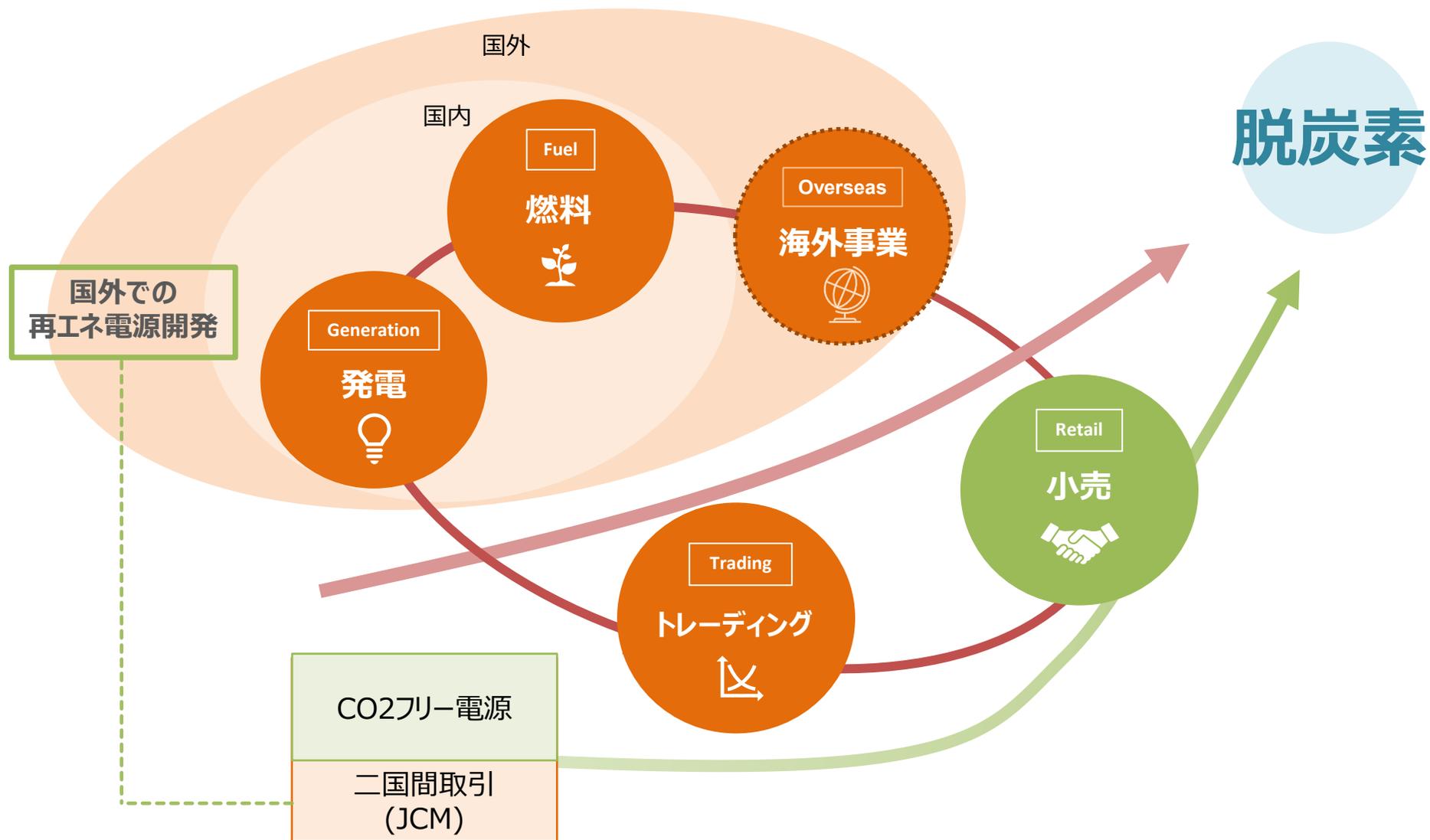


当社の利益構造

■ 一貫体制により、外部環境の変化に柔軟なビジネスモデルを維持、拡大



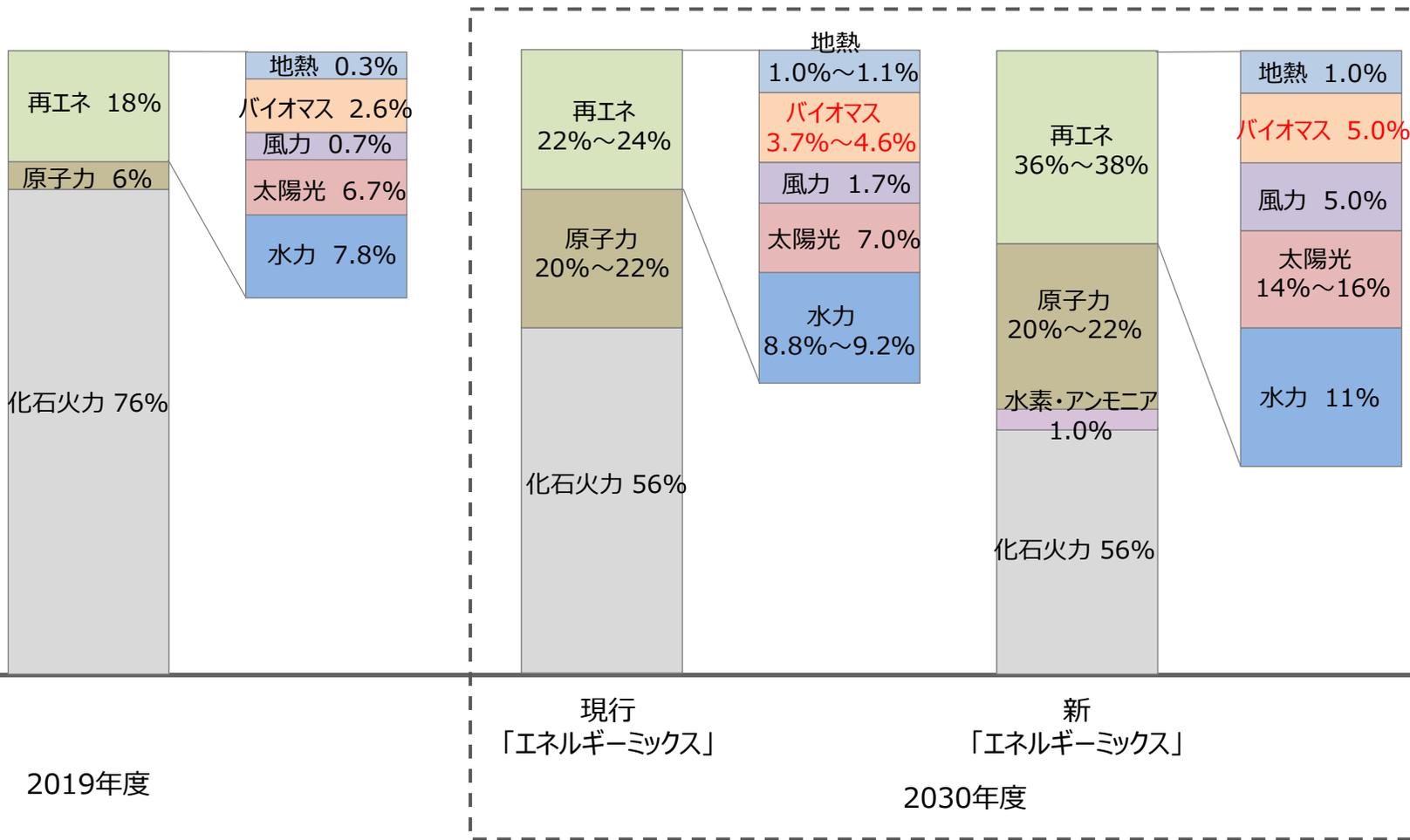
- 5つの事業を一体で推進することで、利益の安定化とリスクの分散を行う
- CO2リダクションを実現し脱炭素を目指す



バイオマス事業

- 2030年度のエネルギーミックスにおいても、バイオマス発電の割合を上げていくと記載

電源構成



出典：2030年に向けた今後の再エネ政策

- 既存バイオマス燃料のPKSはGGL認証を5社で取得。その他の発電所に関して、第三者認証機関の審査により、各燃料の生産や製造、加工、輸送行程に関するトレーサビリティや合法性を確認中
- 新開発バイオマス燃料は新たな森林開発を伴わない作付けを自社で行うことで持続可能な燃料開発を目指す。成長の早い草本のバイオマス燃料を栽培することで、成長過程で多くのCO2を吸収

既存バイオマス燃料

新開発バイオマス燃料

FIT

- GGL認証の取得
2023年4月以降、認証材を用いた発電が義務化

【取得済】

イーレックス
イーレックスシンガポール
STRAITS GREEN ENERGY PTE.LTD.
STRAITS GREEN ENERGY SDN.BHD.
佐伯発電所
※その他の発電所は義務化までに順次取得予定

PKS (パームヤシ殻)

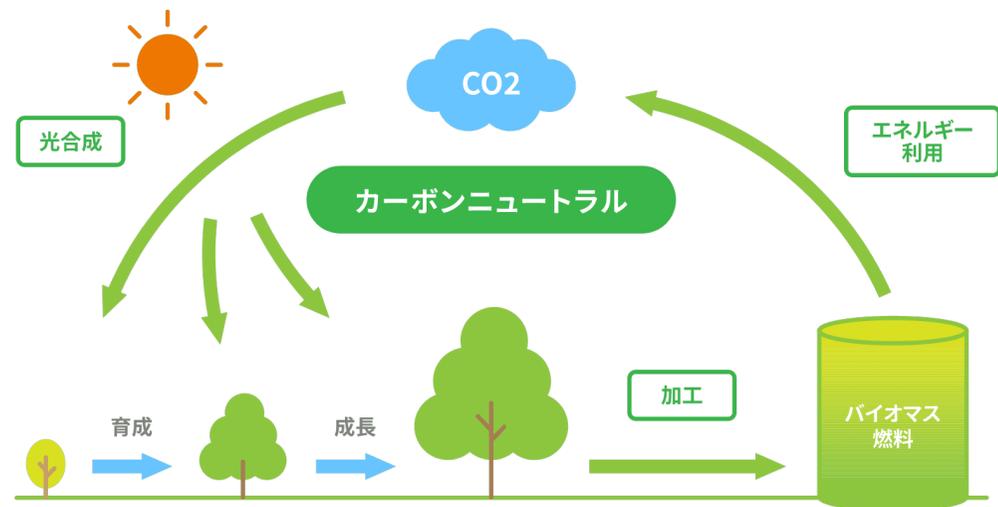
木質 ペレット

- FIT制度において、第三者認証が義務付けられており、認証取得済

Non-FIT

新燃料

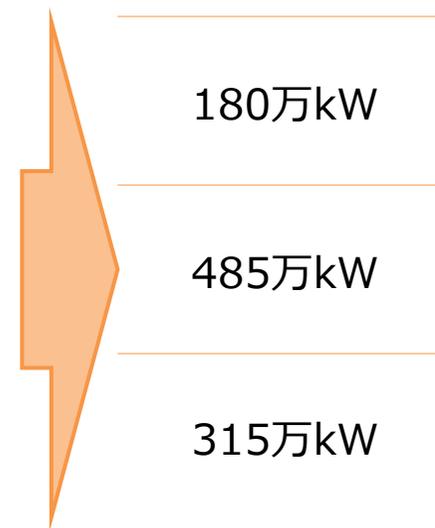
- 新たな森林開発を伴わない作付け
- 成長の遅い植物からの転作



電源別CO2削減比較 (100万kW※石炭火力対比)

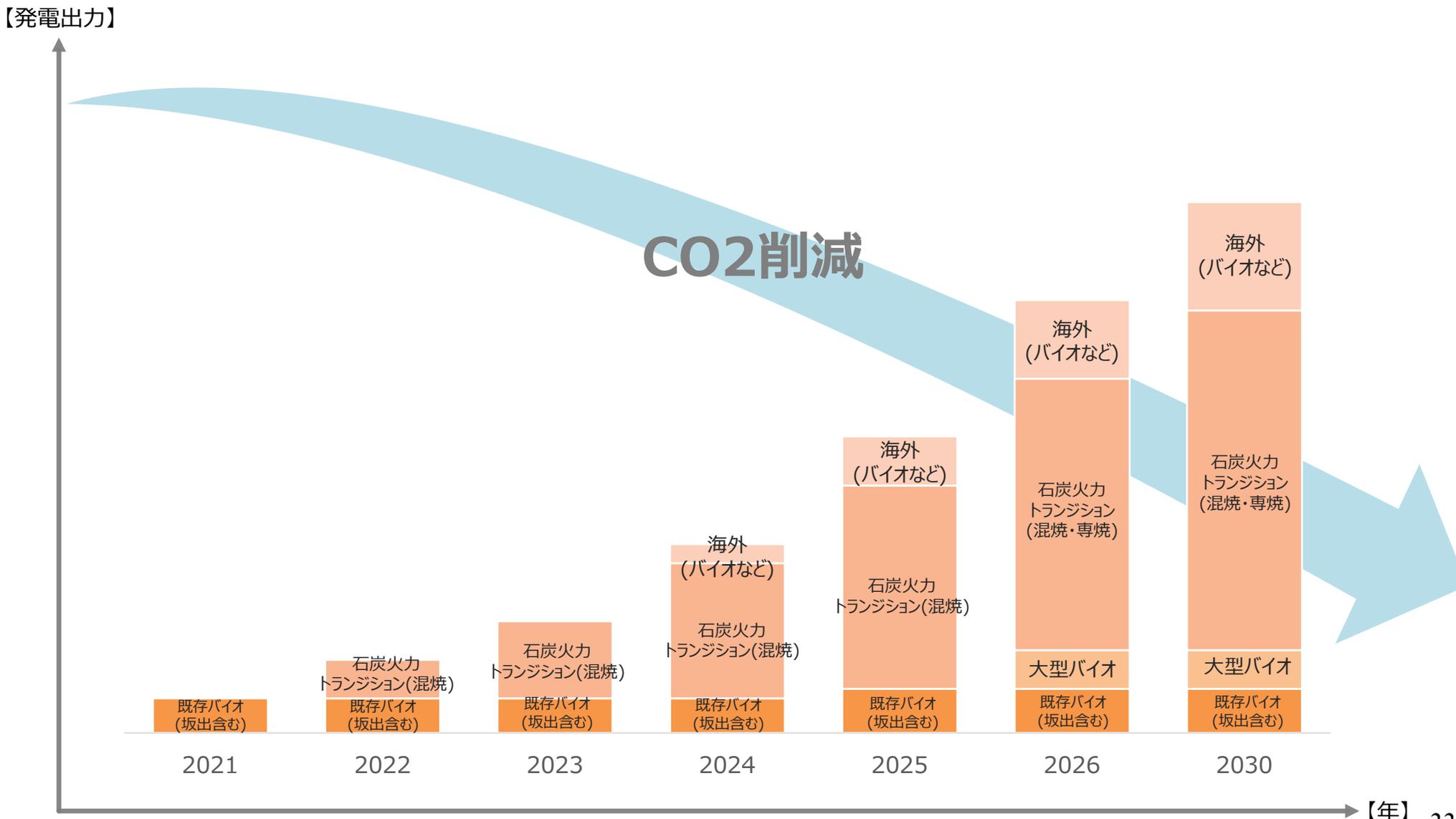
	稼働率	排出係数 (t-CO2/MWh)	CO2削減量 (石炭対比)
バイオマス	80%	0.0	▲6.3 百万t
石炭	80%	0.9	Base
LNG	80%	0.4	▲3.5 百万t
太陽光	17%	0.0	▲1.3 百万t
風力	25%	0.0	▲2.0 百万t

バイオマスと同量のCO2削減
に必要な電源規模



※1 10.9kg-CO2/kWhの電気を抑制する前提で試算

※2 [発電コスト検証WG](#)資料を参考に試算



第3四半期以降の施策

燃料

- 多様なバイオマス燃料開発を国内外で実施

発電

- ベトナムでの事業展開に向け、ベトナム政府と連携
 - ベトナム（ハウザン省）バイオマス発電所建設、計画通りに進捗
 - バイオマス混焼・専焼化、2基程度買取合意に向け最終調整中
 - 国内初の商用の水素発電所、建設地に発電機の設置完了
- 【継続案件】
- カンボジア水力発電プロジェクト本格工事着工
 - 世界最大級のNon-FIT大型バイオマス発電所建設に向けアセス推進中

電力小売

- 資源価格高騰による販売価格見直し
- 株式会社イーセルのグループ会社化
- 代理店の質的拡大
- CO2フリーの拡大(販売電気の脱炭素化)

- 2021年11月25日に開催された「ベトナム投資カンファレンス」にて、ベトナム国フーイエン省との間で覚書締結
- バイオマス燃料の開発及び調達や加工や輸送に伴う事業およびバイオマス発電所事業全般において、長期的かつ互恵的な協力関係を推進



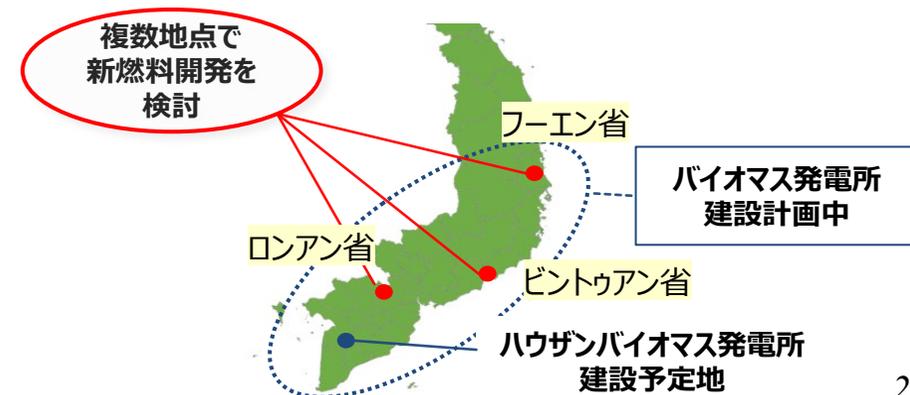
ベトナム国でのバイオマス事業

- ベトナム国フーエン省とバイオマス燃料開発、発電事業全般における協力関係推進の覚書締結
- フーエン省、ビントゥアン省、ロンアン省にてソルガム等の新燃料開発に向けたテスト作付けを実施
- ハウザンバイオマス発電所建設は計画通り進捗。その他数基、バイオマス発電所建設を計画

発電所概要

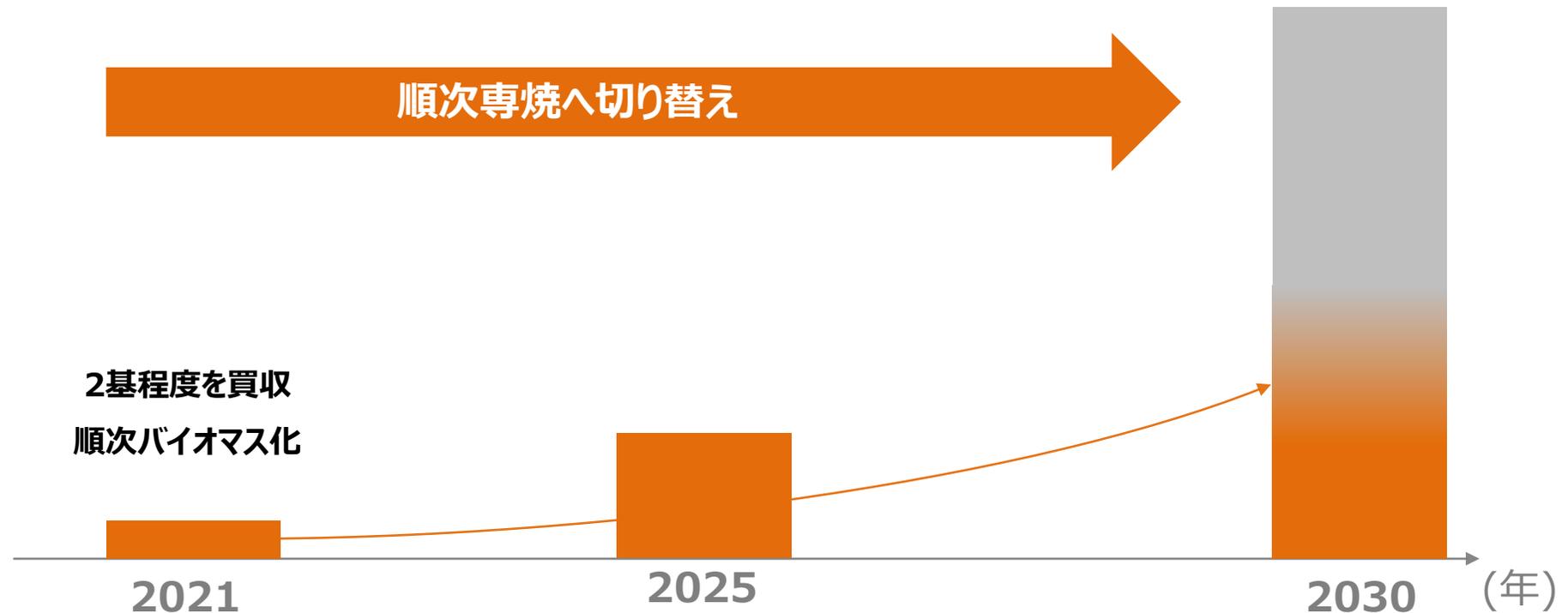
事業会社名	Hau Giang Bio Energy Joint Stock Company
発電所名	ハウザンバイオマス発電所
建設予定地	ベトナム社会主義共和国ハウジャン省
FIT単価 (許認可ベース) ※ベトナムの FIT スキームに則り売電	8.47US cent/kWh
発電出力	20MW (年間発電量は一般家庭約 93,000 世帯分)
主要燃料	もみ殻(年間約13万 t) ※バックアップ燃料としてニューソルガムを使用

試験作付け風景



- 2022年3月末までに2基程度買収合意に向け最終調整中
- 来期以降の合意に向け引き続き十数基の石炭火力と交渉継続中

買収・専焼化ロードマップ



2021年 の取組み

水素 300Nm³/h級

商用の水素専焼発電

- 水素専焼発電事業を通じて、**水素発電・水素由来の電気販売**の課題・know-howを習得
- 将来訪れる水素社会に向けて、水素事業を当社事業の1つの柱とすることを目指す

2022年 の大型化実証

水素 1,500Nm³/h級

水素燃料販売・離島水素モデル

- 大型水素製造の実証を通じて、水素価格の更なる低廉化を目指す。
- 独立系統であることにより、調整力の確保や電力の脱炭素化に課題のある離島において、水素発電が可能となるか検討を実施予定。

- 2022年1月14日に発電機を製造国のドイツから富士吉田市の発電所建設地に搬入
- 2022年3月に運転開始予定（独の技術者が訪日し、試運転実施予定）



富士吉田水素発電所外観

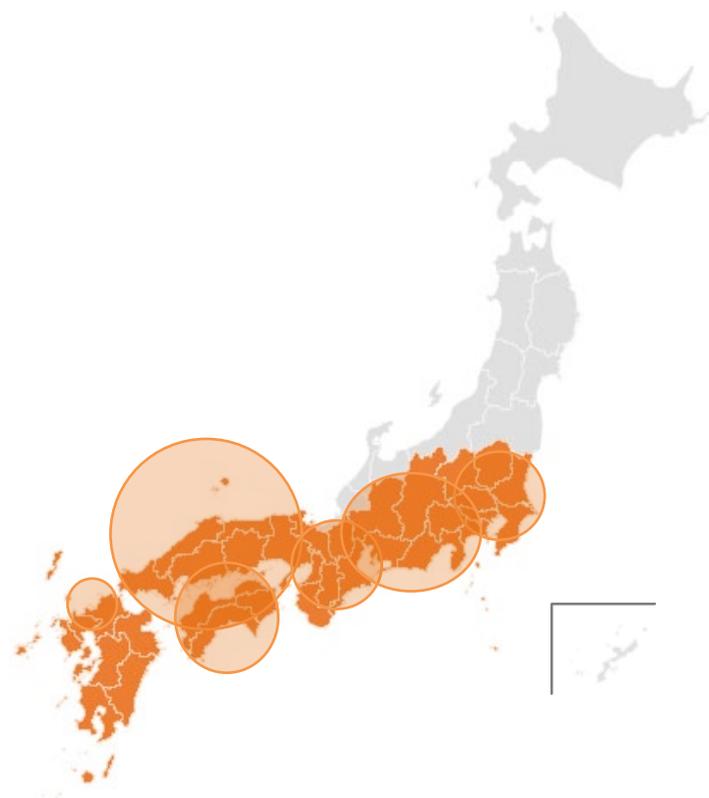
- 2022年2月1日にイーセルをグループ会社化
- 中国・四国エリアを中心に代理店との強固なリレーションシップを構築し、高圧・低圧を展開
- イーレックスが比較的弱い中国・四国エリアを基盤としているため、代理店網の補完機能についても期待

会社概要

会社名	株式会社イーセル
本社住所	広島県広島市西区井口5-6-4
支店住所	広島県広島市西区観音新町4-14-35マリーナホップ内
設立	2011年12月1日
供給電力量	141,884MWh(2020年度実績)
販売エリア	中国エリア、四国エリア、関東エリア、関西エリア、中部エリア、九州エリア



供給エリアと供給量分布



erex

ENERGY RESOURCE EXCHANGE